

加賀市農業委員会だより

No.5

2020.12 発行

〒922-8622
加賀市大聖寺南町ニ 41
TEL 0761(72)7915
FAX 0761(72)7991



— 主な内容 —

- 会長就任ご挨拶 会長 中村義隆
- 表紙によせて
- 農業委員・推進委員活動
- 委員会通信
- なるほど!! 知っ得メモ
- あとがき

○ 折り込み 第6期 加賀市農業委員会がスタートしました
— 農業委員、農地利用最適化推進委員の紹介 —

なるほど!! 知っ得メモ

農地とは、

「農地」とは、稲作のための水田や野菜などを育てている畑のほか、酪農家が牧草を栽培している土地、果樹園なども含まれます。

地域の農家の人たちは、作物を運ぶ農道をはじめ、ため池や水路なども協力して手入れしながら、農地を活用し守っています。

このような優良農地を守り、周辺の農地への悪影響を防ぐため、勝手に売買や宅地に変えたりすることは、制限されています。

3条申請

● 農地を耕作するため、売買又は貸借するとき

4条申請

● 自分の農地を転用するとき

5条申請

● 他人の農地を購入又は借りて転用するとき

※ 転用とは農地を宅地、駐車場、資材置き場など農地以外の使用目的に変更することです。

優良農地か否かの面からみる「立地基準」と確実に転用事業に供されるか、周辺の営農条件に悪影響を及ぼさないか等の面からみる「一般基準」により審査します。

転用目的に必要な面積が、許可されます。

※ 譲受人借人の耕作面積が、申請地を含め一定面積以上なければいけません。

※ 下限面積といい、加賀市では50アール以上です。

旧三谷村の地域は40アール、旧河南村と西谷村の地域は30アールです。

農地の売買や転用をお考えの方は、地元の農業委員又は、農業委員会事務局までご相談ください。

☎ 72-7915

申請の締切日は、毎月10日です。(土日祝の場合、その前日)

毎月下旬に開催する農業委員会総会で審議され、許可書の交付となります。

許可書が交付されるまでは売買や転用はできません。

あとがき

12月に入るとその年の決算をするかのように、今年の10大ニュースや今年の漢字が話題になる。

2020年の春のことを、この先だれもが覚えているだろう。新型コロナウイルスのニュースは、1月の終わりごろから見聞きしていたけれど、遠いどこかのできごとという感覚しか持っていなかった。けれどもあれよあれよという間に身近なものになり、感染拡大防止のために、4月には緊急事態宣言が出され、自粛が要請された。

夏のお盆前後に親戚が行き来する村祭の宴に毎年呼んでもらっているのだが、今年はもちろん取りやめ。私の家では玄関先の提灯すら下げずじまいだった。

神棚に飾る、縄や紙垂は、雷雲と雨と稲妻を表していると感じ入っている。農耕民族らしい祀りと感じ入っている。

大晦日には正月の祝箸に家族の名前をしたためるようにしている。

ひとり静に過ごす所作には、新型コロナウイルスも寄って来ないだろう。

会長就任のご挨拶



第6期会長
中村 義隆

第6期 加賀市農業委員会が スタートしました!!

日頃より農業委員会活動に対し、ご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。この度令和2年11月の改選に伴う総会において、農業委員の皆様から信任を頂き、第6期加賀市農業委員会会長に就任いたしました。

新制度が導入され、2期目となる大切な時期でもあります。新しい農業委員及び農地利用最適化推進員が一丸となり、当市農業農村の発展に取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、皆様もご承知の通り、現在の日本農業は、担い手の高齢化や後継者不足をはじめ、遊休農地の増加など、様々な課題を抱えております。加えて、春からの新型コロナウイルスの感染症拡大は11月には第三波が到来しており、委員会活動も思うに任せない状況にあります。

このような状況の中、2020年3月に閣議決定された「新たな食糧・農業・農村基本計画」では、地域をいかに維持し、次の世代に継承していくのかという視点が重要であり、農業委員会の使命である「担い手への農地利用の集積・集約」「遊休農地の発生防止・解消」「新規参入の促進」など農地利用の最適化を進める活動を充実させることが最も重要であると考えております。

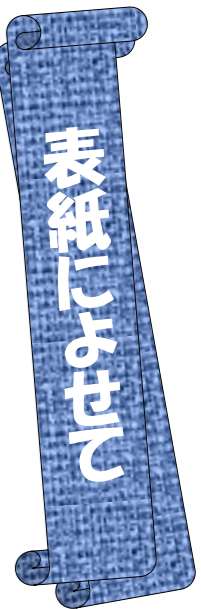
また、「人・農地プラン」の実質化に向けても関係機関と連携を密にし、積極的に参画して参りますので、皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。

輝く農業ガール

「ハイ！おまたせしました」
朝露が残るブロッコリー畑から笑顔で登場したのは、中島町の下出農産(株)専務の佐藤茉莉子(さとうまこと)さん。

現在、農業用ドローンのオペレーター資格に挑戦中です。
就農とか田舎暮らしとか、特に意識したことはありません。父や母の背中を見て手伝っているうちに気が付いたときには農業デビューしていました。

大学卒業後は語学留学のため、日本とオーストラリアを行ったり来たり生活でしたが、農繁期には実家のコンバインやダンプを乗りこなし、バイト代を学費に充てていました。
5年間の留学中、シドニーのお気に入りレストランで出会ったシェフと結婚、一緒に帰国し昨年秋には母になりました。



子供には自分に合った暮らしをする楽しそうな大人の背中を見たい。
大人って楽しいんだ！農業って素敵な仕事なんだって思ってもらいたいです。

幸せの波紋を拡げていったら農業だって地域だってもっと元気になるります。

「農業は、クリエイティブで、可愛いくて、楽しむ仕事」将来は、どんな様のレストランで「食と農」の豊かさをアピールしたい。そんな可能性を感じているところです。



高知へ先進地視察

10月14日から16日にかけて、農地利用最適化の先進地視察に高知市へ伺いました。

温暖な高知市では、キュウリなどの施設園芸が盛んで、新規就農研修支援を活用し、生産者と地域が一体的に栽培技術の習得や地域の担い手の受入をしています。

また、高知市農業委員会では、航空写真を活用した中山間地の遊休農地調査や、市街地の農地保全のため、生産緑地制度を導入するなど幅広い取り組みをされておりました。

高齢化や担い手不足などの地域農業が抱える課題は同じですが、説明の一つひとつに気が溢れ、高知市農業委員会を



高知市農業委員会にて



人柄にふれ、私たちが農業への愛情が一層増しました。
また、委員の結束もより深まり充実した研修でした。



第58回 石川農業委員会大会

11月20日、白山市において石川県農業委員会大会が開催され、加賀市からは18名が参加しました。

大会では、農業政策への提案決議の後、農地利用の最適化推進等の大会スローガン宣言に続き、ガンパロの拍手で締めくくりました。

また、9年間にわたり農業委員と推進委員を務められた山道志朗委員(橋立地区 11月退任)が、石川県農業会議会長表彰を受けました。



「半農半X」って？

政策提案にもありました「半農半X」というライフスタイルが、近年注目されています。

自分の時間の半分を使って自分や家族の食べ物を作るための農業をやり、残りの半分の時間で、自分がやりたいことをやろうという生き方です。

農のある暮らしをしながら、自分が大切だと思うこと、大好きな仕事をするなどで、精神的に満たされる暮らし方は、心豊かな暮らしをしたいという人達から共感を集めています。特に20代から40代が関心を示しているといわれています。